

ありーて

わたしの未来はわたしが創る

2011.2
10号



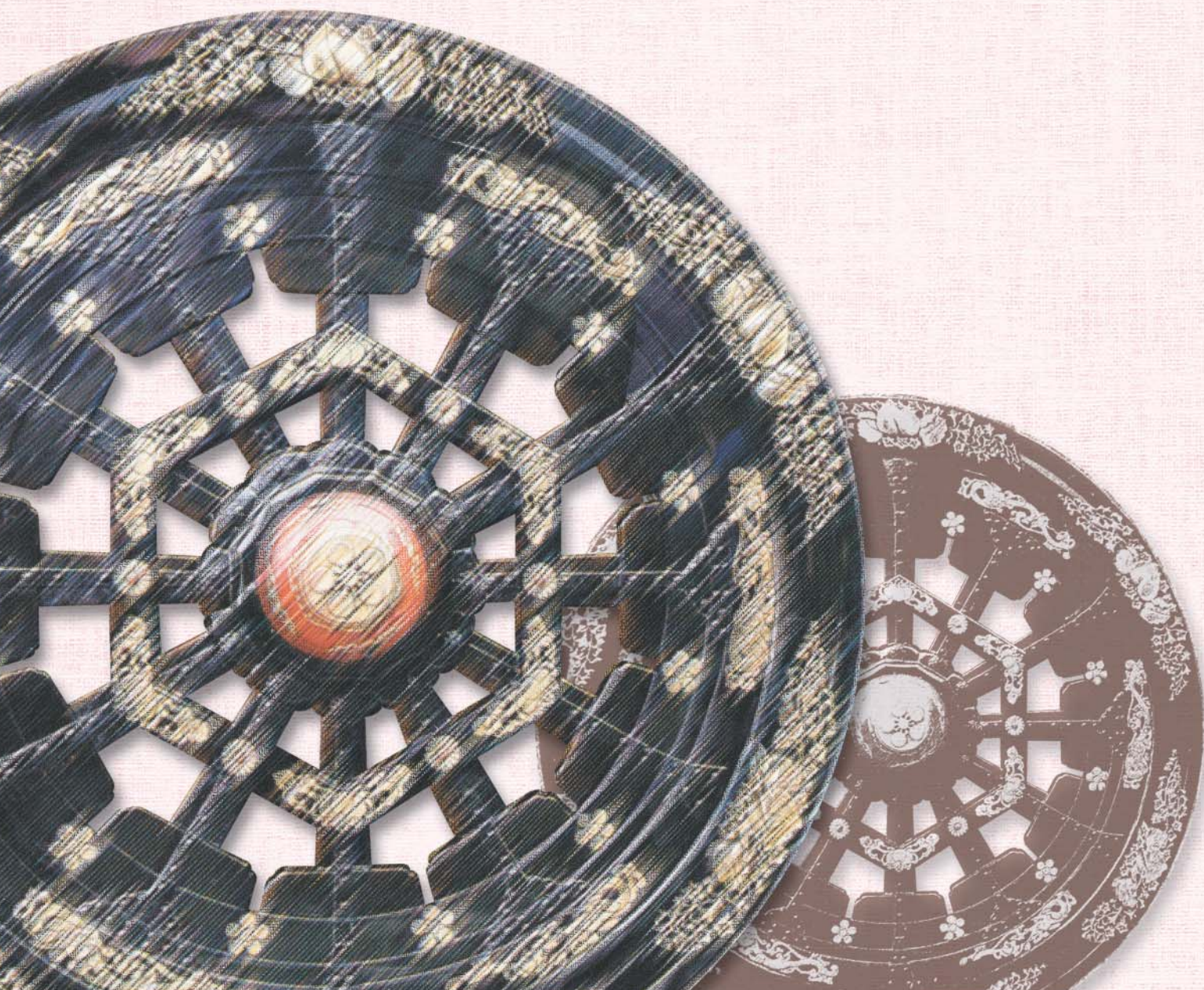
「ありーて」は
自分の力で問題を解決していく
イギリスの童話
「アリーテ姫の冒険」の
主人公の名前です。

特集

夫婦としての生き方を考える

～幸せな結婚生活のカタチ～p2

- 男女がいきいきと働ける事業所紹介.....p6
- 編集員おすすめ 本の紹介.....p6
- セピア色の写真から／神子高たかさん.....p7
- センター活動登録団体紹介.....p8
- センターから.....p8



夫婦としての生き方を考える

～幸せな結婚生活のカタチ～

平成16年に高岡市男女平等推進センターが開館してから、相談室には多くの相談が寄せられています。特に、「夫婦の問題」「生き方」「DV」の相談が多く、平成21年度には「夫婦の問題」が439件、「生き方」1229件、「DV」1000件の相談がありました。こうした現状をとらえ、夫婦としての生き方について取り上げました。

みなさんは夫婦・結婚生活についてどのように考えていますか。

まず、結婚生活に関する富山県のデータを見てみましょう。

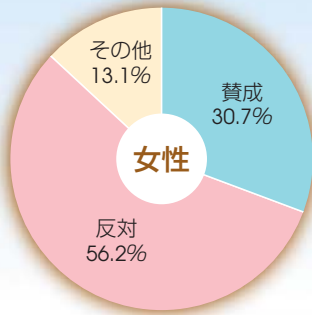
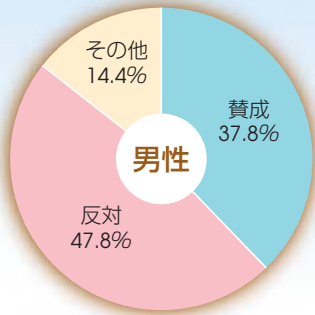
結婚・家庭に関する意識

『平成21年度 富山県男女共同参画社会に関する意識調査』より

Q1 結婚生活

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

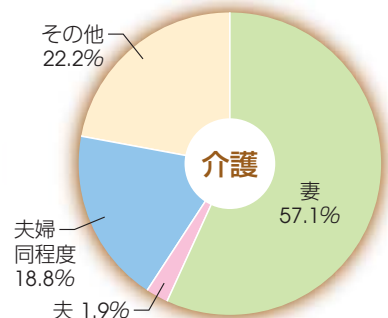
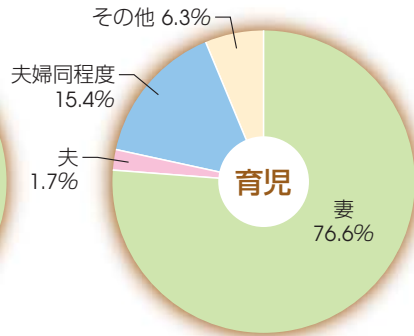
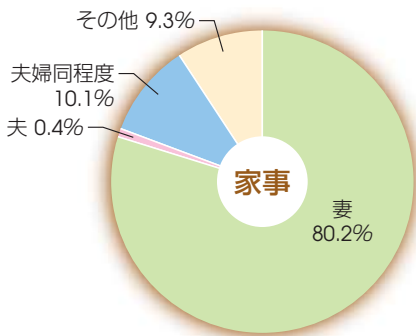
(回答：男性 481人, 女性 535人)



Q2 家庭における家事等の役割分担の状況

現在、あなたの家庭では次にあげるような家事などを主に誰が分担していますか？

(回答：男性 340人, 女性 384人)



これらのグラフから、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に過半数が反対しているのに、実際には家庭における家事等の役割分担では妻の果たす役割が大きいことがわかります。

このような中で、みなさんはどのような結婚生活を送っているのでしょうか。また、送りたいと考えているのでしょうか。20代、子育て世代、熟年世代の方にインタビューしました。



私たちはこんな結婚がしたい

20代未婚女性に聞きました。

信頼

結婚に
必要なものとして、
やっぱり信頼。

我慢

楽しんで
ばかりじゃなく、
我慢も必要。

愛

愛は大切。

お金

やっぱり
お金が必要！

適度な干渉

干渉しすぎたらあかん。
わたしもしてほしい。
でも、真剣な話のときは
真剣に聞いてほしい。

責任

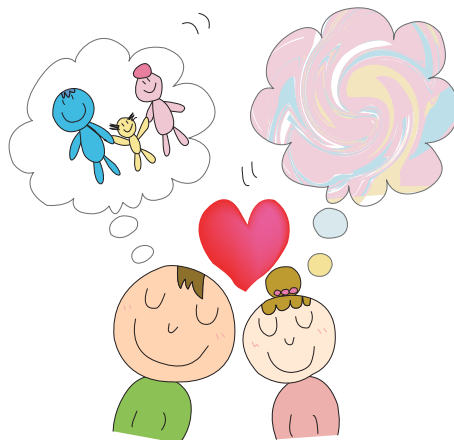
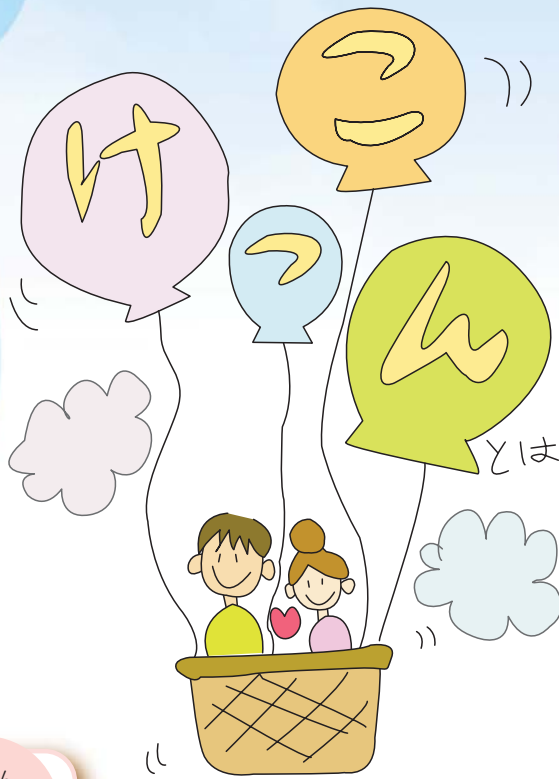
たとえば、結婚した翌日に
相手が半身不随になっても、
一生その人と一緒、
そついう責任が結婚…なのかな。
だとしたら、
私にはまだ無理かな…

Yさん
24歳・女性
会社員

今はまだ結婚できないと感じ
ている。友人からの「結婚は責
任。何があってもその人から離
れなさい」という言葉がひっ
かかっている。自分自身、そして相手に対
しての「責任」という言葉に結婚の「重み」
を強く感じている。責任を負ってまで夫と
いう支えを必要としない。自分のやり
たいことや楽しみがたくさんある。

Tさん
24歳・女性
保育士

子どもは2人くらいが
いい。よく寝て、よく食
べる子が一番理想☆別々、
ピクニックとか、何か夢
みたいなことはなくてもいい。ほの
ぼのしたいな。父親がかわいがって
くれたらいいな。子どもには4、5
歳くらいまで、服とか小物とか作っ
てあげたい。夫の小遣いは6万円く
らい。会社で後輩とかにおごれるよ
うに。結婚しても仕事は続ける。子
どもができたらパートになる。夫と
子どもには絶対おかえりを言いたい。
そして子どもが高校生くらいになっ
たら、フルタイムで働いてほしいな。
子どもの幸せが自分の幸せ。
それから、夫婦お互いの親に子ど
もを頻繁に会わせてあげたいな。



Mさん
24歳・女性
管理栄養士

子どもは2人、犬が1匹。
私はパート。15時にパートを終え、
スーパーに行く。おいしいご飯を作り、
子どもたちが帰ってくる。子どもたち
は宿題と犬の散歩をして、3人（私と子ども2人）
で夕飯。パパは20〜21時ごろに帰宅。子どもたち
はパパと少し話し、おやすみ。私はご飯を温め、
夫と今日一日のことを話して、夫はご飯を食べる。
まだ遠いことに感じている。

新たななる越中男の夜明けやちや

高岡の
粋メンに
聞きました。

専徒英一さん(38歳)

商工会青年部 副部長

平成22年6月、厚生労働省は、「イクメンプロジェクト」を立ち上げました。「イクメン」とは「子育てを楽しむ、自分自身も成長する男性のこと」としており、育児をすることが、自分自身だけでなく、家族、会社、社会に対しても良い影響を与えるとしています。

高岡市では、このように育児、家事はもとより、介護、地域活動などに積極的な男性を粋でかっこいいモデルとしてとらえ、様々な取り組みの中で、育成・発信していくこととしました。

このことから、「ありて」では、素敵な高岡の「粋メン」に着目し、育児や家事に体当たりの熱く頼もしい、その生活ぶりを取材しました。



商工会青年部副部長をはじめ、小学校PTA役員や保育園の役員、地域活動にも積極的で、仕事以外にも様々な社会活動をされている専徒さんは、忙しい

日々の中でも3人の息子さん達と欠かさずしていることがあると言います。

『お風呂は必ず、一緒に入りますね。そして今日あったことなどを3人それぞれ1つでもいいから、



聞き出します(笑)。給食1番やったーかけっこ1番やったーとか、何でもいいんです。ケンカ話は私の意見を押し付けず、真剣に聞きます。あと、地域活動などで知っている子には、必ず声をかけます。子どもは、やはり地域で育てるものだと思いますよ。そう思うことができるのは、地域のつながり

を大事にし、まわりと豊かな人間関係を築いてきた親父のおかげかな。親父達と同じように、これからは地域の子ども達を見守ってきたい。』と子育てへの熱い思いを語ってくださいました。

乳幼児期の育児はどうでしたかとお聞きすると『育児に無関心な私に不安を感じた妻から「一生付き合う名前だけは、あなたが決めて!」と言われ、それからジワジワと父親の自覚みたいなものが出てきました。お風呂とできる限りのおおつ交換、ハミガキは私の仕事でした。お風呂はそれ以来続いています。』と、照れくさそうにおっしゃいました。

振り返るように付け加えられたのは、『他の子より少しおとなしめの我が子に、つつい熱く語り過ぎたり、叱りすぎかな?と思う時もよくあります。妻が子どもを叱っている時は私が、我が子どもを叱っている時は妻が受け止めてやる。』なるほど、よく言われることですが、お互いの思いを尊重していないと出来ないことだと感じました。

藤原 忍さん(25歳)

会社員 アトリエノエル 主宰



『妻とは知り合ってから、間もなく結婚。若過ぎるからと、周囲の反対もありましたが、子どもを授かった時、神様が2人の思いを形にして、ご褒美をくださったのだ、と感じました。』

日に日に大きくなる妻のお腹に、生命の不思議を感じ、実際にこの腕に子どもを抱いた時には、宇宙の神秘を感じ、育児に奮闘する今も『今日日は、どんな新しいことをしてくれるだろう。』と、毎日が楽しみで仕方ありません。妻子を愛おしいと思う気持ちを写真として形にしています。』と、趣味が高じて、最近はプロのカメラマンとしても活躍されている藤原さん。娘さんの写真はすでに1万枚を超えているとか…。

喜びを常に表現されているお姿は、静かな中にも、力強い父親としての自覚に満ちて、頼もしい限りでした。

これまでの結婚生活を 振り返って思うこと

熟年世代の
妻に
聞きました。

硯 雅子さん(61歳)



いつ同じ目的に向かって、お互いに力を合わせてやってきた。

『女将って、店の看板でもあるけれど「縁の下の力持ち」の役割が大きくて、我慢もしたけれど、それによって見えてくるものもあり、充実していました。』

このように女将として店を切り盛りする毎日を過ごしてきた一方、家族の協力のおかげもあって、10年前に書道の師範を取得、昨年9月には、仕事の合間に練習してきた、日本舞踊『尾上流』の名取になった。また、地元のラジオに月1回出演し、「商都高岡」や「まちづくり」などをテーマに話をするなど、地域とのかかわりも大切に行っている。

『健康に恵まれ、仕事も続けられたことを家族やまわりの人々に感謝しつつ、これからも生活を楽しみ、夢を追い続けていきたい。そのためにも、これからも一生懸命に働く。』と笑顔で話してくれた。

夫には、店をあんな風に、こんな風にと意気込み、時には反発しましたが、店を盛り立てると

河合代志子さん(61歳)



河合さんは、22歳で恋愛結婚。夫の転勤で、その都度、環境は目まぐるしく変わった。地域での人付き合いなど、辛抱することもあったが、夫や2人の息子とともに、なんとかそれを乗り越えてきた。

「休日は、家族みんなでドライブに行くなど、楽しく過ごしたことが思い出。また、家族の笑顔を思い浮かべながら、食事を考えたり作ったりすることが、当時の私にとって幸せだったのかな。」と河合さんは振り返る。

12年前、家族で高岡に戻った。夫の母親と同居し、これまでとはまた違った生活環境で過ごすようになった。夫はこれまでのキャリアを生かして、定年後に起業。河合さんは、夫の会社の経理を担当する一方、週2回、保育士としても働く日々を送る。結婚生活を振り返って、幸せな夫婦像について語っていた。幸

「幸せな夫婦は、それぞれに居場所があって、夫と妻が互いに思いやること

できること。一緒にいて楽であること。気心が知れてくること。」

さらに、将来の夢を次のように話してくれた。「まずは2人が健康であること。70歳までは仕事を続けて、そのあとは、趣味と実益を兼ねて、手作りの何かを始めたい。そのためには、体力をつけないとね。」



今回の特集では、結婚生活について20代未婚女性、粹メン、熟年世代の妻に伺いました。

夫婦としての生き方、幸せな夫婦とはどのようなものか。家族の絆を大切に思う人、育児に積極的な男性、夫と妻それぞれが自分の居場所を持ち、2人で歩む楽しさを知っている夫婦。

幸せな結婚生活のかたちは人それぞれ。夫婦でかわりあえることがあること、またそれを見つめることが大切なのだと感じました。皆さんはどう思われますか。

男女がいきいきと働ける事業所 紹介

高岡信用金庫

(平成22年度「女性が輝く元気企業とやま賞」受賞)



講演要旨

「女性が輝く元気企業とやま賞」とは、女性の登用や能力の向上への取り組みに積極的で、女性が職場でいきいきと活躍している企業に県から与えられる賞です。

今回、高岡信用金庫は女性の管理職の登用や仕事と家庭の両立支援を評価されたの受賞となりました。

具体的にどのような取り組みをされているのか、10月21日、高岡信用金庫 清水人事部長のご講演を聞いてきました。

高岡信用金庫では、女性のキャリア・アップ制度を設け、業務に必要な資格の取得や小論文等の条件を課し、契約・パート職員から正社員への登用を進めています。リーダー研修等に参加させ、管理職に登用したり、これまで経験のない部署へ配置したりと職域拡大への取り組みも行っていきます。加えて、資格取得者へ奨励金を支給するなど、能力向上への支援も積極的に行っています。

また、育児・介護休暇を取りやすいように、すぐに補充できる体制を整え、休暇取得者にはメールで情報提供をするなど復帰しやすい環境づくりをしています。

こうした取り組みにより、女性自身の仕事に対する意欲が高まり、男女がいきいきと働ける職場が広がります。

編集員 おすすめ本の紹介

◆うさぎドロップ 1~8巻

宇仁田ゆみ (祥伝社フィールコミックス)

祖父の葬式で初めて出逢った6歳の少女を、突然育てることになった30歳の独身男ダイキチ。

特殊な設定で物語は始まるが、大人の言い分や立場を見据えた上で、周囲から見放された子どもの立場を最優先に思いやり、自分のライフスタイルを呆気無いほど潔く変えていけるダイキチのカッコ良さがミモノ！人が人を育てる上で大切な何が2人を通して伝わってきます。今後の「粋メン」必見です！



◆“It”と呼ばれた子



デイヴ・ベルザー／著
田栗美奈子／訳
(青山出版社)

母親から、ある日突然虐待を受け始めた子どもの目を通した記録。虐待防止の一步に一読を。

◆砂漠の女ディリー



ワリス・ディリー／著
武者圭子／訳 (草思社)

ソマリアの遊牧民として生まれ、13歳で砂漠を飛び出したワリス・ディリー。砂漠での生活や割礼の経験、その後スーパーモデルとして活躍する彼女のどんな時も強く生きる姿と、いつも弱い立場に置かれる女性の状況などが描かれています。

セピア色の 写真から

「高岡女子教育の先人」

神子高たかさん

(一八七一年～一八八六年)



神子高たか（大福院蔵）

高岡は江戸時代後期、商業都市として栄えていた。そのため、商学知識や専門的な知識を身につけた子弟の育成が必要になったのであろう。修三堂・敬業堂といった私塾をはじめ、多くの寺子屋が設立され、教育が盛んに行われていた。大福院の山伏の妻、神子高たかの設立したのもその一つである。

神子高たかは、一八一七年（文化十四年）に大福院の娘として生まれた。当時、大福院のあった片原町は寺社の数も多く、寺町として栄えていたようである。昭和二十七年に大福院は木津に移転したが、現在でも高岡大和の裏通りには大福院通りと呼ばれる通りがある。

大福院の本寺が金沢にあったため行くことも多かったからか、たかは幼少時、金沢の人に字を習ったと言

われている。

たかについての資料は少なく、詳しいことはわからないが、一八三三年（天保四年）十六歳の時、大福院内に女子だけの寺子屋を開き、習字を主として『女大学』『百人一首』などの素読を取り入れていたと言われている。女に学問は不要と考えられた時代に、高岡で女子のみを対象とし、師匠も女性であった寺子屋は、神子高たかの寺子屋と武田貞子（戸出の豪商竹村屋貴兵衛の妻）のものだけであったと言われている。

たかの寺子屋では、午前七時ごろに始業し、午後一時ごろ終業していたようである。一日に平均二百人以上の子どもたちが通っていたが、たかは月謝を要求することもなく、益暮れにわずかなお金と品物を受け取っただけと伝えられている。

一八七二年（明治五年）に学制が

公布された。現在の株式会社北陸銀行高岡支店のある場所に育英小学校ができ、たかも教員として教えることになったが、大福院での寺子屋も継続していた。



創建時の育英小学校

一八八六年（明治十九年）七月十三日に六十九歳で亡くなるまで、二千人（八千人とも）もの女子を教え

たと伝えられている。

「寺の娘として生まれ、教育を受ける機会に恵まれたたかにとって、女子に教育を授けることは特別なことではなかったのであろう。自分に与えられたことを他の人にも同じように与えたい、そんな思いから寺子屋を始めたのではないだろうか。」と八代目当主 神子高弘昌氏は語る。

神仏習合の流れをくみ、江戸時代から脈々と続いている大福院。現在、木津にある大福院は高岡新西国三十三観音霊場の第二十三番霊場でもあり、たたずまいのなかに歴史が感じられる場所だった。

*注釈

『女大学』

江戸時代に女子の修身書として広く読まれた教訓書。

【参考文献】

『高岡市史 中巻』 高岡市史編纂委員会編

『富山県教育史 上巻』

富山県教育史編さん委員会編

『人づくり風土記16』

加藤秀俊（ほか）編纂

『高岡を愛した先人たち』

高岡商工会議所編

『高岡の図書館 29号』

高岡市立中央図書館編

『越中の人物』

奥田淳爾 米原寛著

『高岡新西国三十三観音霊場』

辻穰著



高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

高岡DV被害者自立支援基金 パサパ



暴力で解決しない社会を目指し、DV被害者が自立の一步を踏み出すための、一時支援金無利子貸出し・生活用品(日用品・学用品・制服リユース等)提供活動などを行っています。活動は、賛同する個人・団体のみなさんからの会費・寄付で支えられています。是非、リーフレットを手にとってみてください。

会員は随時募集中です!

パサパ電話 080-6358-0838

NPO法人 ハッピーウーマンプロジェクト

「元気に、そしてハッピーに暮らしたい」
それが私たちの願いです。

女性と子どもが健康で安心して暮らせる、偏見や暴力のない社会を目指して活動しています。扱うテーマは、DV、虐待、性、労働、医療、食など多岐にわたります。また、グループカウンセリングなどの相談事業も行っています。詳しくは、<http://happy-woman-project.net/>まで。

活動趣旨に賛同いただける方は、
ぜひご入会ください。一緒に活動しませんか!

◎年会費4,000円(入会金1,000円/初回のみ)、会員特典として、ニュースレター(4回/年)・関連情報の送付、受講料割引あり

あなたのグループもセンターに登録しませんか?

センターのホームページ(<http://www2.city-takaoka.jp/gec>)で、上記以外の登録団体・グループも紹介しています。

2011年
2月末現在の登録
51団体

センターから

高岡市男女平等推進センター

結婚って!

所長 野村 乙美

人間、その年代にならないと解らない事って多いもの、60代の今、自信を持って言えることのひとつです。

今回のテーマ「結婚」は、人を幸せにするもののひとつであり、家庭を築くことで、「仕事」に劣らぬ人間力が形成されます。その為には、若い時に「結婚」についての自分なりの価値観(死ぬまでお互いの理想に向かって切磋琢磨する結婚観)を持つことが大切です。何故なら、賢い人でも愛の前では誰よりも愚かになり、相手が実際の何倍も素晴らしく見えてしまうからです。私は、そういう恋人同士を結びつける空想や夢があるからこそ、人類が減びることなく現代に続いていると思っています。しかし最近のあまりにも増える日本の離婚率を考えると、しっかり結婚観を持っていただきたいと思うのです。

①結婚して約3~5年で、あの熱愛の夢から覚めるときが必ず来るからです。目に見える本当の姿を通して、理想のパートナーとなる為に認め合い、尊重し合う努力をお互い続けることの結婚観があれば、幸せな家庭へと一歩一歩本物に近づくことでしょう。

②子どもが誕生すれば、当然家族のあり方を話し合い、今度は理想の両親となる努力が続けられることでしょう。そんな親の姿から自然学習しながら、子どもは自らの人生を歩む羅針盤を持ち、自立し育つのです。

さて、人生の終盤において孤独から救われるのはパートナーの存在であると、90代の諸先輩からよく論されます。長い人生には山あり谷ありと苦勞することも多い、例えパートナーと別れても、生涯、身の回りに起きる喜びや悲しみを写真相手に語り、感謝をしながらおだやかな人生、幸せな人生が送れるそうです。

その、「結婚」するしないは、個人の自由です。若い人達が結婚したいと思い、子どもたちが健やかに育ち、幸せに暮らせる社会を目指す観点から、更に男女共同参画の推進が不可欠です。

発行/高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)
電話/0766-20-1810 FAX/0766-20-1815
E-mail/gec@office.city.takaoka.toyama.jp
ホームページ/http://www2.city-takaoka.jp/gec/

- 「ありて」は上記のHPでもご覧いただけます。
- この情報誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

【編集委員】

岡本実千代 松本早由希 村井佐和子

ありて キャラクターデザイン: 山崎 可菜さん(高岡市在住)